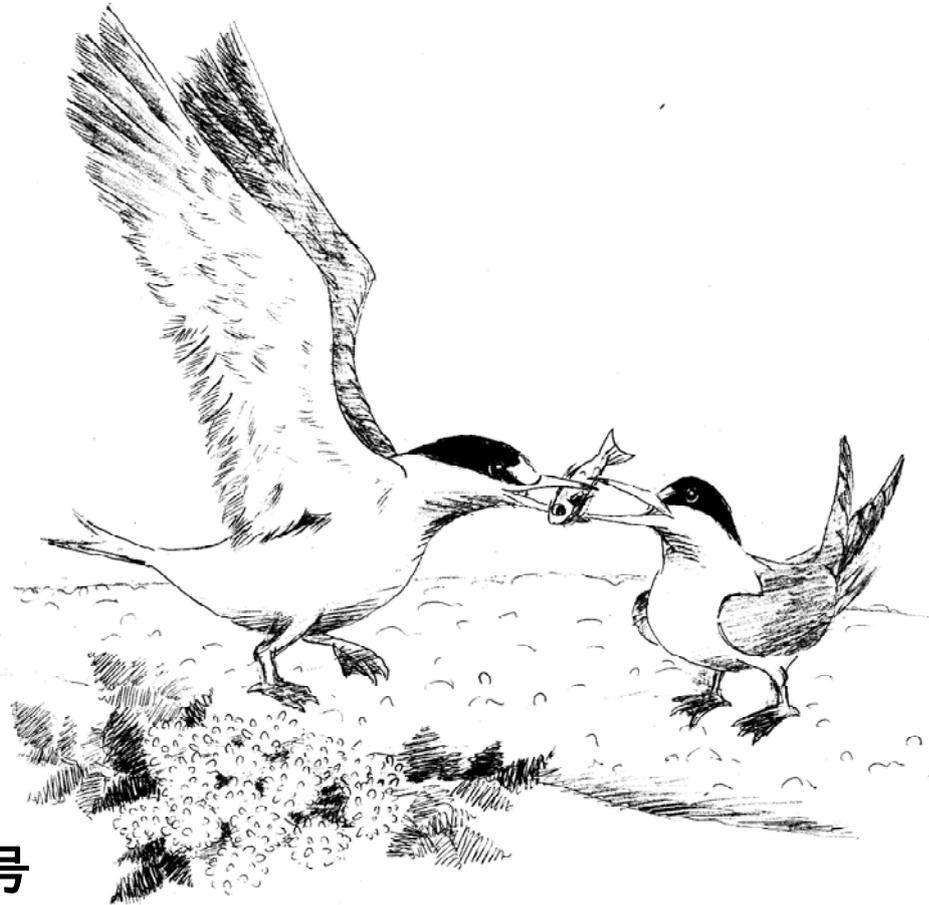


シロチドリ



第81号

2014年9月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

田舎暮らし雑感

近藤義孝(桑名市)

4月に今まで勤めた公立高校の教員を退職しました。私たちの年齢から公的年金上乘せ部分(私は共済年金)の受給が61歳からになったため(国民年金は65歳から)、多くの同僚が再任用という形で、仕事を続けています。私は、パートタイム的な非常勤講師の形で少し仕事はしていますが、週3回午前中だけの仕事になりました。その代わり、今まで十分にできなかった農業(百姓)に取り組んでいます。

家の裏には、江戸時代に先祖が開墾した水田があります。その上には溜め池があり、冬になると、オシドリがやってきます。また、1年中カワセミが魚を捕りに来ています。自宅にいても渡りの季節にはジュウイチやツツドリ、ヨタカも鳴いてくれます。5月にはホトトギスがウグイスに託卵するためやってきます。冬には、ルリビタキも見られます。

こんな自然豊かな環境をうらやましいと思われる方も多いと思いますが、実は今こんな環境で生活することが大変なことになっているのです。

それは、日本のあちこちで問題になっている野生動物と人間との軋轢がある場所だからです。都市部にサルが1匹出没し、警察、消防、市役所など多くの人が捕獲のために出動と報道されたりします。そのニホンザルが毎日30匹以上の集団でやってくるのです。家の屋根に登り、畑で採った作物をゆっくりと食べています。雨樋がはずれり、瓦も割れたりします。以前栽培していた富有柿や温州ミカンなどの果樹園ではサルの食べなかった残りを人間がいただく状態、野菜で作れるのはシシトウ・ピーマン・オクラ・サトイモ・ショウガだけです。ニガウリもかじっていきます。お盆になると、お墓にやってきて、お供えのホオズキの実を食べていきます。一緒に花なども引き抜き、ひどいことになっています。

田植え後の水田では、シカが来て苗を食

べていきます。次にサルが若い穂の汁を吸います。最後にイノシシが水田の実った稲を引き倒しています。去年は溜め池の下の水田では稲刈りもできない状態になりました。

目次

田舎暮らし雑感	1
(株)東産業「第11回環境フェア in 四日市大学」出展	3
第3回こどもフェスティバル in 四日市市文化会館」出展	4
事務局だより	5
野鳥記録	5
探鳥会報告	8
編集後記	11

表紙の言葉

コアジサシの求愛

小野新子

ハマボウフウやハマヒルガオが咲き出すと浜は一段と賑やかになってくる。コアジサシたちも恋の季節、プレゼント作戦で恋の駆け引きをする彼らの様子が微笑ましい。小魚をくわえてウロウロする者、尾羽を上げ待つ者、それでも恋の成前はすんなりとは行かないようで、プレゼントを持ち逃げされたりそっぽを向かれたり身につまされるところがある。

絶滅危惧種に指定されているコアジサシの繁殖に期待を込めて、今年もデコイを設置した。さっそく何羽かが抱卵を始めた矢先、カラスに卵を捕食されてしまった。カラスから卵を守る何か良い手立てはないものだろうか・・・

国の補助で地域全体を柵で仕切ったり（シカ・イノシシ対策）、個人で電気柵を設置したり、市がシルバー人材に花火を使ってサルの追い払いをしてもらったりしているのですが、効果は限定的です。

なぜこれほど、昔から日本にいる野生動物と人間との軋轢が高まったのでしょうか。地球温暖化の影響やオオカミの絶滅、猟友会会員の高齢化、耕作放棄地の増加によって人家のそばまで動物がやってくるようになったなどいろいろ言われています。

都会で暮らすようになったハシブトガラスが遊んでいる様子がテレビで流されています。豊かな食物を得ることができるようになり、余裕のできたカラスはますます賢くなったようです。ニホンザルもどんどん生活様式を変えています。特に何代にもわたり、人里近くで生活しているサルは人間の作った作物でおなかを満たしています。以前のように山で暮らしやどんなものを食べていたかなどの文化は途絶え、食べ物に恵まれることによって繁殖力も旺盛になり、個体数も著しい増加をしているようです。

そこで、今年は玉城町や菰野町で栽培されているマコモタケの栽培を取り組み始めました。イノシシやシカが入らないように

電気柵をまず設置し、その中にマコモタケの田植えをしました。電気柵の設備を入れる小屋も作りました。除草が大変でしたが、今のところ被害は出ていません。10月くらいに収穫できる予定なのですが、どうなるでしょうか？

山では、スギやヒノキの伐採をしなくてはならなくなっています。切っても運搬してもらって製材してもらおうと材木を買うよりも高くなってしまいます。大規模な場合は自分で大型の重機を買って作業をすると利益も出るようです。でも、そんな規模でもありません。とりあえず、よい燃料にはなりません、薪にでもしてみようと思っています。

薪ストーブも寒くなるまでに用意しよう、薪ストーブを燃やす部屋も作ろう、そこでみんなにお茶でも飲んでもらおう、薪風呂を作ろう、マコモタケ水田の除草にアイガモを使ってみよう、畦などの除草にヤギを飼おう、もう一度ニワトリも飼ってみよう……。

とりあえずは、イノ・シカ・サルの対策に苦慮しながらも、野鳥のさえずる田舎暮らしを楽しんでいこうと思っています。



オシドリのやってくる溜め池の法面とマコモタケ



電気柵の設備を入れる自作の小屋

(株)東産業 「第 11 回環境フェア in 四日市大学」 出展

8月9日、10日に四日市大学にて開催された、四日市市に本社を置いている(株)東産業と同じく市内にある四日市大学との初の共催イベント「第 11 回環境フェア in 四日市大学」に出展してきた模様をレポートします。

当初2日間の開催予定でしたが、台風11号の接近により8月9日だけの1日開催となりました。9日も朝から大雨が降っており搬入作業だけでびしょ濡れ状態になり、この状態で何人の人が来場するのか少々不安になりながら展示作業をすすめました。展示会場は普通の1教室で地元環境団体と半分ずつ使用することになっていました。展示スペースが掲示ボード2枚と黒板だけしかなくA1のパネルを6枚貼るとほとんどスペースがなくなってしまいました。対象年齢が大体小学生なので、「里山の鳥」「水辺の鳥」「空の王者」の3つにわけてA4写真を展示しました。



10時の開館と同時に沢山の家族連れが来場していただきほっとしました。今回は割と身近に見られる鳥の写真を展示したのでみなさん、結構興味深々でした。「カワセミなんて近所で見られるの?」とか「田んぼでキーキーうるさい鳥って何?」など質問も多数していただき夕方16時の閉館まで沢山の人が盛況のうちに終わりました。

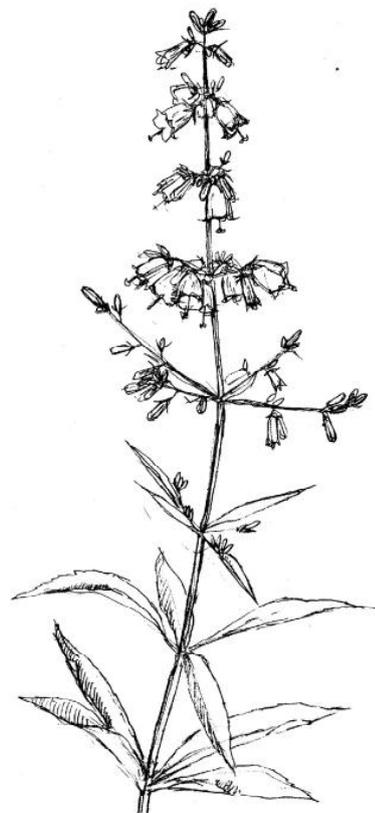
しろちどり 81号(2014年9月)

予定通り2日間あったらもっと来場者が増えたであろうことが残念です。尚、9日の来場者数は悪天候にもかかわらず、およそ800人だったそうです。



最後に展示にあたり写真を提供して下さいました中井氏にお礼申し上げます。

2014年8月 川瀬裕之



ツリガネニンジン

「第3回こどもフェスティバル in 四日市市文化会館」 出展

環境フェア in 四日市大学の次の日、8月11日（月）に四日市市文化会館にておこなわれた「第3回こどもフェスティバル in 四日市大学」に出展しました。

この催しは第3回こどもフェスティバル実行委員会、(公財)四日市市文化まちづくり財団の主催で毎年行われており今年で3回目を迎えます。

今年はじめて出展させていただくことになり、対象年齢も前日開催した環境フェアとほぼ同じくらいなので同様のレイアウトで行いました。

今回のテーマが「身近な自然の音を聞いてみよう！」なので会場となった展示棟第三会議室に野鳥の鳴き声を流しました。当日用意されていたノートパソコンが不調でCDを流すことが出来ず、急遽わたしのスマートフォンにインストールした「野鳥鳴声図鑑 50」というアプリで野鳥の鳴き声を流しました。

展示した写真とうまくリンクしている時があり、来場された家族連れの方から色々質問していただきました。「あ、あの鳴き声ってこんな鳥やったんや！」っていう方も多数いて、その鳥について少々レクチャーすると大変満足してお帰りになられ大変うれしかったです。

このブースでは今回お声掛けしていただきました(株)東産業の榊枝氏が缶バッチマシーンをもってきてくれて、オリジナルの缶バッチを子供たちが作って大変盛り上がりました。

子供たちが缶バッチづくりに夢中になっている間に親御さんに鳥の説明を行いました。今回も身近にみられる野鳥の写真だけを展示したのでみなさん割と熱心に写真とパネルを見ていました。

最後にこのようなイベントで一番身近な野生動物である野鳥に少しでも興味をもってくれる人が一人でも増えれば幸いです。

2014年8月 川瀬裕之



しろちどり 81号 (2014年9月)

事務局だより

活動の記録 (2014年6月～8月)

- 6/2 コアジサシデコイ作成・設置 (雲出川河口砂州)
- 6/4 企画展の打ち合わせ (松阪農業公園ベルファーム)
- 6/3 会報「しろちどり 80号」発行・発送作業
- 6/7～8 第22回中部ブロック会議(静岡県)参加
- 6/27 興和株式会社と企画展の打ち合わせ (松阪農業公園ベルファーム)
- 7/1 北勢地区の開発問題について関係者協議
- 7/19 玉城町福社会館にて三者会議 (代表、副代表、事務局長)
- 7 平成26年度カワウねぐらコロニー調査事業委託の実施
- 8/4 企画展の準備品申し込み (松阪市公民館)
- 8/ ストリクスへ投稿のための準備作業 (今井、平井)
- 8/9～10 株式会社東産業主催の環境展 (四日市大学) に出展
(台風接近のため9日のみ開催=別記事参照)
- 8/11 第3回こどもフェスティバル in 四日市市文化会館に出展
(別記事参照)

野鳥記録 (2014年5月14日から2014年8月15日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所 (三重県)	雄/雌/などの区	記録報告者名	脚注
ハリオシギ	1	2014年4月17日	御浜町志原	成鳥	中井 節二	1
ギンムクドリ	2	2014年3月13日	熊野市久生屋町	♂1羽♀1羽 4/3日まで滞在	中井 節二	2
ギンムクドリ	6	2014年3月16日	御浜町志原	♂1羽♀5羽	中井 節二	3
ホシムクドリ	1	2014年2月23日	熊野市久生屋町	4/4日まで滞在	中井 節二	4
ハジロクロハラアジサシ	2	2014年5月16日	松阪市曾原町		前田 聡・シズコ	5
クロハラアジサシ	1	2014年5月16日	松阪市曾原町		前田 聡・シズコ	6
クロハラアジサシ	1	2014年5月16日	桑名市城南海岸		山神 勝治	7
ハジロクロハラアジサシ	1	2014年5月19日	松坂市曾原町	不明	伊藤 敏和	8
ブロンズトキ	1	2014年5月17日	御浜町市木	5/18日まで滞在	清水 勝海	9
メリケンキアシシギ	1	2014年5月22日	志摩市阿児町国府	成鳥夏羽 雌	今井 光昌	10
ハジロクロハラアジサシ	1	2014年5月19日	松阪市曾原町	雄不明 成鳥	西村 四郎	11
ハジロクロハラアジサシ	2	2014年7月17日	桑名市城南海岸	成鳥夏羽 1 成鳥冬羽 1	山神 勝治	12

- 1) 尾羽が短い、嘴も短い、この2点でタシギと違う 大きさは、オオジシギとかチュウジシギよりも小さかった
- 2) 3月13日と19日は、2羽で3月17日と19日は、♂1羽です.頭が白いのが特徴
- 3) 田んぼの近くの榎に止まっていた
- 4) 嘴が細く体に白い斑点がある、2月23日と3月19日と4月3日に3回出た
- 5) 3羽のアジサシを発見し、頭部の特徴から3羽の内2羽はハジロクロハラアジサシであることが判明した
- 6) 腹部が黒色であったことからクロハラアジサシと判断、写真撮影し確認した
- 7) たくさんのアジサシの中に夏羽のクロハラアジサシ1羽いた
- 8) 羽根の裏側が黒い

しろちどり 81号(2014年9月)

- 9) 嘴はトキに似ていた
- 10) 脇の波状横斑はキアシシギに比べより黒くて粗く密、横斑は腹の中央部まである
初認者は廣辰司氏
- 11) 会員数名で観察した
- 12) 夏羽と冬羽が一緒に並んでいた



ハリオシギ
(撮影：中井節二)

ギンムクドリ (撮影：中井節二)



クロハラアジサシ
(撮影：前田聡・シズコ)

ハジロクロハラアジサシ
(撮影：伊藤敏和)



ブロンズトキ
(撮影：清水勝海)

メリケンキアシシギ
(撮影：今井光昌)



ハジロクロハラアジサシ
(撮影：西村四郎)



ハジロクロハラアジサシ
(撮影：山神勝治)

~~~~~  
**探鳥会報告 (2014年5月～7月)**

● 上野森林公園探鳥会

2014年5月6日(火・祝)9:30～12:00  
伊賀市下友生 上野森林公園

前澤昭彦 平井正志 参加者52名(会員10名)

キジ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ、コジュケイ 計24種

三者の共催で、多方面に催事PRができていて盛会となった。

多気から参加した小4のM君は、図鑑を丸暗記していて、鳥の説明はほとんどM君にお願いした。「では、鳥の説明を野鳥少年のM君にお願いします。」って感じでした。

● 朝明源流探鳥会

2014年5月10日(土)9:00～15:00  
三重郡菰野町千草 朝明溪谷

辻 秀之 近藤義孝 参加者8名(会員6名)

ツツドリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、キビタキ、オオルリ、ホオジロ 計17種

今年もオオルリやミソサザイが元気なさえずりを聞かせてくれた。この探鳥会では初めてのコガラもかわいい姿を見せてくれたが、林床のササがシカに食いつくされ、かつての定番のコルリが見られなくなった。

秘境の朝明源流もすっかり有名になり、多くの登山者で賑わっていた。

#### ● 鈴鹿川派川探鳥会

2014年5月11日(日) 9:30～10:45

四日市市楠町南五味塚 鈴鹿川派川河口  
安藤宣朗 参加者6名(会員6名)

ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、トウネン、ハマシギ、ユリカモメ、カモメ、コアジサシ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、セグロセキレイ、ホオジロ 計32種

清々しい初夏の日差し、風もなく絶好の探鳥日となったが、四日市市内では萬古祭り朝から賑やかであった。そのせいかな？ 定刻になっても

3名の参加者しか

いない。その後

3名の参加があったものの小じんまりした探鳥会となった(北勢地区では、シギ・チドリの観察は、まだ特殊な存在かも??)。

アオアシシギ、ソリハシシギや多数のキョウジョシギ、トウネンなどシギ9種・チドリ3種その他20種、合計32種を観察した。



サイハイラン

#### ● 瀬戸林道山の鳥探鳥会

2014年5月13日(日) 開催予定でしたが、林道の通行止めにより中止しました。

#### ● 海蔵川探鳥会

2014年5月13日(火) 9:45～11:40

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者13名(会員12名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、ゴイサギ、ダイサギ(またはチュウサギ)、バン、ケリ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計23種

心配していた前日の雨も上がり、風がややきついものの汗ばむ位の陽気になりました。

川の水が田植えの影響で茶色に濁っていて水鳥の出が心配でしたが、カイツブリが元気に巣づくりをしている姿を見ることが出来て皆大喜びでした。定番のカワセミが1度だけ姿をみせてくれました。昨年頃からアマサギの姿をあまり見かけなくなってしまい、少し残念です。

#### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年5月25日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者14名(会員5名)

キジ(4)、カルガモ(8)、キジバト(7)、カワウ(70)、アオサギ(5)、ダイサギ(3)、ケリ(20)、コチドリ(3)、コアジサシ(1)、ミサゴ(2)、ハチクマ(1)、トビ(1)、チュウヒ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(40)、ヒバリ(40)、ツバメ(50)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(10)、セッカ(30)、ムクドリ(7)、スズメ(50)、ハクセキレイ(2)、カワラヒワ(20)、ホオジロ(3)、ドバト(15) 計28種

5月も終わりなのに、ハチクマの渡りを観察できました。ツバメやオオヨシキリなどの夏鳥を見ることができました。

● 金剛川河口探鳥会

2014年5月26日(月)9:00～11:00  
松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 宮川たつ 参加者11名(会員10名)

キジ、マガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヒクイナ、チュウシャクシギ、キアシシギ、コアジサシ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計24種

下見(24日)の時には、トウネン、オオソリハシギ、ホウロクシギ等いたが、当日は見当たらなかった。5月下旬になるとシギが減ってしまっていて、開催日をもう少し早くしなければ、と反省しました。

帰り道、百々川河口水門のところにはオオソリハシギ、ホウロクシギがいました。

● メナード青山探鳥会

2014年6月8日(日)8:30～12:00  
伊賀市青山町霧生 メナード青山リゾート

田中豊成 小林達也 参加者24名(会員10名)

トビ、サシバ、キジ、キジバト、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、キビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計23種

梅雨にもかかわらず、晴れてくれました。

ホオジロ、キセキレイの親が餌をくわえていた。両種とも(場所は異なるが)子育てをしていると思われたので、我々は直ちにその場所から去った。サシバが盛んに鳴いていた。近くを飛んだり、上空高くを3羽が飛翔した。何故3羽だったのかは分からない。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年6月22日(日)9:00～12:00  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者7名(会員5名)

キジ(3)、マガモ(1)、カルガモ(50)、キジバト(15)、カワウ(80)、アオサギ(8)、ダイサギ(4)、コサギ(2)、ケリ(20)、コチドリ(5)、イソシギ(1)、コアジサシ(4)、ミサゴ(1)、トビ(2)、チョウゲンボウ(1)、ハヤブサ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(10)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(40)、ツバメ(200)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(3)、メジロ(1)、オオヨシキリ(4)、セッカ(30)、ムクドリ(50)、スズメ(100)、ハクセキレイ(2)、セグロセキレイ(2)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(6)、ドバト(60) 計33種

6月の雨の中、7名の参加者がいました。ハヤブサやチョウゲンボウが観察できました。



ホオジロ

● 木曾岬干拓地探鳥会

2014年7月27日(日)9:00～11:30  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/日本野鳥の会愛知県支部  
近藤義孝 米倉 静 参加者19名(会員  
7名)

キジ(1)、カルガモ(15)、キンクロハジロ  
(1)、キジバト(5)、カワウ(100)、ササゴイ(1)、  
アオサギ(10)、ダイサギ(35)、ケリ(2)、コ  
チドリ(1)、イソシギ(4)、ウミネコ(1)、セ  
グロカモメ(1)、ミサゴ(1)、トビ(1)、チュ  
ウヒ(3)、カワセミ(1)、ハシボソガラス  
(10)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(20)、  
ショウドウツバメ(20)、ツバメ(2000)、ヒ  
ヨドリ(3)、セッカ(20)、スズメ(60)、ハク  
セキレイ(3)、カワラヒワ(30)、ホオジロ  
(1)、ドバト(2) 計29種

暑い日差しの中、19名の参加者が集ま  
りました。途中から黒い雲が現れ、近くで  
大雨の情報が入り、天候が悪くなる前に終  
了するようにしました。

昨年に引き続き、今年もチュウヒの幼鳥  
を観察することができました。



ミサゴ

## 編集後記

今回の号はあまり準備に時間をとるこ  
とができず、うすっぺらいものになっ  
てしまった。会報に期待している会員  
諸氏にお詫びしなければならない。会  
員の中には色々観察して、興味ある事  
実、あるいは写真を持っておられる方  
も多いものと思われる。十分に発掘で  
きていないのが、現状である。

ところで過去の「しろちどり」をホ  
ームページで公開することにし、その  
一部がホームページに載せられた。会  
報は本来会員だけのものであるが、掲  
載された記録は貴重であり、全国の野  
鳥観察者にも見てほしい。一定の時間  
のたったものだけ公開する方針である。  
全国の日本野鳥の会協力団体でも同様  
に過去の記録を公開していただければ  
実に貴重なものとなろう。

夏は過ぎ、秋になる。いつもと同じ  
ように季節は変わるが、何か違って  
いるかもしれない。耳を澄まし、目を  
凝らして観察し、記録しよう。

しろちどり 81号

2014年9月15日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：小野新子

カット：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印刷：伊藤印刷株式会社

514-0027 三重県津市大門 32-13